

Party

Vol.13

発行月：平成26年1月

旭川厚生病院広報誌



目次

1. 巻頭言
2. 診療科から
3. 連携医療機関・関係機関のご紹介
4. 総合相談センター便り
5. 部門紹介～理学療法技術科



JA北海道厚生連の理念

JA北海道厚生連は、組合員ならびに地域住民の皆様生命と健康を守り、生きがいのある地域づくりに貢献してまいります。

病院の理念

私たちは、「最も信頼され選ばれる」病院をめざします。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与いたします。

基本方針

1. 患者中心の医療と安全・快適な療養環境をつくります。
2. 高度医療を推進するとともに、総合周産期医療の確立に努めます。
3. 医療機関相互の機能連携を推進いたします。
4. 職員の教育・研修を推進いたします。
5. 経営基盤の強化を図り、健診事業の充実と医療・保健・福祉活動を通じて地域に貢献いたします。

患者さまの権利

1. 人権は尊重されます。
2. 適切な医療を平等に受けることができます。
3. 治療方法を選択することができます。
4. 十分に納得いく説明をお求めにすることができます。
5. 医療上の個人情報を守られます。
6. 転院、紹介を希望される場合、必要な情報は提供されます。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

巻頭言

【新年ご挨拶】

旭川厚生病院

院長 柴田 好



新年明けましておめでとうございます。皆さまには輝かしい新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は当院ではとても嬉しいことがありました。「救急医療功労者厚生労働大臣表彰」を受賞したことです。この表彰は、多年にわたり、地域の救急医療を支え、その推進に貢献したものに対して、厚生労働大臣が行うものです。今回の受賞は全国から医療機関16団体（病院関係）、北海道では当院が選ばれました。ハイリスクの母体や新生児の受け入れをはじめ、小児救急拠点病院および総合周産期医療センターとして産科・小児科の救急医療を評価されたものです。昨年9月9日に表彰式が厚生労働省で行われ白井小児科主任部長が出席し、田村厚生労働大臣から表彰状と記念メダルを授与されました。多くの方がたの力により、「地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与する」病院を守り続けてきたことを認められた証です。

当院は開院72年を迎えました。病院は昭和63年に新築移転しましたので、この地では27年経つこととなります。新しい時代の医療に即して最新の医療設備の増強、さまざまな改築や改装を行っています。

2012年9月から北海道No1のスライス数を誇る256スライスのマルチスライスCTを導入しました。回転速度が世界最速のCTであり、放射線の被曝量も少なく高速広範囲撮影が可能です。きわめて高速なので動きのある心血管撮影もできます。すでに心臓循環器診療に大きな力となっています。これまで患者さんに動きを強いていた大腸バリウム検査もこの装置に患者さん自身は動かなくても、まるで自由自在に動いているように撮影できるようになりました。ですから大腸はバーチャル内視鏡検査として描出できるようになりました。

2013年10月には緩和ケア病棟を開設しました。

当院はがん拠点病院として道北で最初に認定を受けています。健診センターを中心として、がんの早期発見のために人間ドック、巡回ドックを実施しています。また、全身のがんを発見できるPET-CTもいち早く備えました。

しかし、不幸にして進行してしまったがんの患者さんや、再発して治療方法が無くなった患者さんもいらっしゃいます。「まごころをつむぎ、寄りそい、ともに生きる」を理念に掲げがんの痛みや、がんに伴う吐き気、不眠などの苦しさ、心のつらさなどを緩和することを目的とした緩和ケア病棟は終末期のがんの患者さん、ご家族の支えとなっています。また、厚生看護学校だった別館にはがん患者さんのためのサロン「ミナミナ」がボランティアの方々で運営されています。何も話さなくても暖かい雰囲気でもまされる場となっています。

昨年来、内視鏡センターの拡充のための工事が行われています。2012年には手術件数、内視鏡手術の増加に対応するために新しい手術室を増設しました。内視鏡検査件数も年々増加しています。安全で効率的に内視鏡検査を受けられる設備と機器を整備することにしています。

旭川厚生病院は、つねに療養環境の向上に努め、医療機器の充実をはかり良心的な診療を行います。本年もどうかよろしく願いいたします。



救急医療功労者厚生労働大臣表彰状と盾

糖尿病について

代謝・内分泌内科

三浦 貴徳



1. 糖尿病とは

糖尿病は、血液の中に含まれるブドウ糖の濃度（血糖値）が高い状態が長く続く病気です。血中のブドウ糖の濃度がある程度高くなると、尿中にブドウ糖が漏れてくるため、「糖尿病」と名づけられました。

ブドウ糖は、体の様々な細胞のエネルギー源として必要なもので、その調節は、膵臓のランゲルハンス島の中にあるβ細胞から分泌されるインスリンというホルモンによって行われています。このインスリンの分泌が低下したり、その働きが十分でないと血糖値は高くなります。

日本人の糖尿病は、年々増加しており平成19年の国民健康・栄養調査によると、「糖尿病が強く疑われる人」の890万人と「糖尿病の可能性を否定できない人」の1,320万人を合わせると、全国に2,210万人いると推定されています。

糖尿病は、大きく分けて1型糖尿病と2型糖尿病にわけられますが、1型糖尿病はβ細胞が破壊され、からだの中のインスリン量が絶対的に足りなくなって起こります。多くは子供のうちに始まることが多く、以前はインスリン依存型糖尿病と呼ばれていました。一方、2型糖尿病はインスリンの出る量が少なくなったり、肥満や過食により、インスリンの作用が低下することにより発症します。わが国の糖尿病の95%以上は2型糖尿病なの

で、本稿では主に2型糖尿病について説明します。

2. 糖尿病の症状

糖尿病の症状として、のどが渇く、トイレが近くなるなどの症状は有名ですが、このような症状がおこるのは極めて血糖が高くなったときに限られ、2型糖尿病のほとんどはまったく自覚症状がありません。

しかし、症状がないからといって糖尿病を放置していると、高血糖が全身の様々な臓器に障害をもたらします。とくに眼の網膜、腎臓、神経は障害を受けやすく、糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害は糖尿病の「三大合併症」と呼ばれています。網膜症が起こっても最初は自覚症状はありませんが、高血糖が持続することで悪化し、失明に至ることがあります。腎症も最初は少量のタンパク尿が出るだけですが、徐々に体内に水分や毒素がたまるようになり、最終的には人工透析が必要になります。神経障害が起きると、しびれ、痛み、感覚鈍麻（どんま）、発汗異常、勃起障害などが起こります。

三大合併症以外にも、高血糖によって動脈硬化が進むため、狭心症、心筋梗塞、脳梗塞が起こる率が高まり、また足の血管の閉塞や壊疽により足を切断しなくてはならなくなることもあります。

3. 糖尿病の診断

糖尿病の診断は 血糖値、網膜症や糖尿病の典型的な症状（口渇、多飲、多尿、体重減少）の有無、HbA1c値（HbA1cは過去1~2カ月間の平均血糖値を示す指標です。赤血球に存在して酸素運搬を行うヘモグロビンというたんぱく質の中で、ブドウ糖が結合しているものの割合を意味します。血糖値が高いほど、HbA1cは高くなります）を組み合わせて行います。血糖値が正常なのか、糖尿病なのか、その中間の境界型であるのかがはっきりしない場合には、75gの糖分を含む飲料を飲んで検査することもあります（「75g経口ブドウ糖負荷試験（75gOGTT）」と呼ばれる検査です）。

4. 糖尿病の治療

H25年に熊本で行われた日本糖尿病学会において、糖尿病合併症の予防のためにHbA1cを7%未満に維持することが提言されました。この目標達成のため、糖尿病の治療が行われますが、糖尿病治療には食事療法、運動療法、薬物療法があります。食事療法、運動療法が治療の基本ですが、これらだけで血糖値が下がらない場合には薬物療法を併用します。現在は、新規の糖尿病に対する薬剤が次々に開発されており、血糖値の管理は以前よりやりやすくなってきています。しかし、2型糖尿病の治療の基本は食事療法です。日本人の糖尿病は爆発的に増加していますが、その原因の多くは食生活の変化と運動不足にあるといわれています。特に、食事のバランスが悪くなっており、食事に占める脂質の割合が著明に増加しています。日々の食生活の改善と運動の習慣をつけることは、2型糖尿病治療に大変重要です。

5. 最後に

糖尿病の治療は、難しいといわれています。難しさの原因は、糖尿病が自己管理が重要な疾患だからです。どんなに新しい薬やインスリンを使ったとしても、現在の食事を含めた生活習慣を変えなければ、血糖値のコントロールは不可能です。糖尿病治療の主役はみなさんたちなのです。

連携医療機関・関係機関のご紹介 第4回

旭川厚生病院との連携と当院の役割

旭川レディースクリニック 佐藤 広文

はじめに

皆さんこんにちは。旭川レディースクリニックの佐藤広文と申します。

厚生病院を退職し7年経ちました。

平成6年7月に前任地の富良野（富良野協会病院）から赴任し、平成19年3月に退職、同年6月に現クリニックを開業し現在に至ります。

在職中は他科のドクターはもとより、看護スタッフ、薬局、放射線科、臨床検査科、医事課、総務課、ソーシャルワーカーさん、健診センターのみなさん、守衛さん、地下食堂の方々、多くの方々にお世話になりました。7年も経って今更ではありませんが、この場をお借りし、お礼申し上げます。

また、退職し開業までまるまる2ヶ月ありましたが、4月の1ヶ月間、旭川南病院併設の老健施設（グリーンライフ）の施設長も経験させていただきました。短い期間でしたが、スタッフの方々に大変お世話になりました。

当院の紹介

当クリニックは、3条通2丁目十字屋ビル2階にオフィスを構えております。十字屋ビルは1階と2階がオフィスフロアで3階からはマンションになっています。当院はマンション部分とは別に、3条本通り側に専用の入り口を持っております。

婦人科の診療が中心で、子宮ガン検査（頸部、体部）、おりもの・かゆみ・性感症検査をはじめ、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍、月経困難症、月経過多症、月経前症候群、更年期症候群の診療などを行っております。

分娩の取り扱いはありませんが、厚生病院で分娩される方に限っては産科担当医の了解のもと、28週くらいまでの妊婦健診もさせていただきます。

手術は、初期子宮頸ガンに対する子宮頸部円錐切除の他、残念ながら流産（妊娠11週未満）となった方への対応、バルトリン腺嚢胞／膿瘍に対する造袋術を



行っております。

前2者は全身麻酔で行います。事前に必要事項を説明させていただき、別な日の朝に来院していただきます。術後はリカバリールームで2時間ほど覚醒状況を見て、お昼には帰宅となります。入院は不要です。バルトリン腺の造袋術は局所麻酔で行います。随時実施可能で、もちろん入院は不要、術後すぐ帰宅となります。

厚生病院との関係

厚生病院に赴任したのは卒業11年目の時でした。当時、産婦人科は3人体制で、ガン診療も含め婦人科全般と周産期（分娩や妊婦健診、合併症妊婦の入院管理など）、そして当時趨勢となっていた母胎搬送の受け入れ、更に健診センターでの婦人科検診がありました。正直、「これはえらいところに来てしまったな…」と思ったものです。

赴任して4、5年経ったとき4人体制になりましたが、それでも「今はもう逆立ちしても無理（もちろん逆立ちも出来ませんが…）、思い出すだけでゾットする」…そんな毎日でした。つくづく、若かったなと思います。

色々ありましたが、結局13年勤めさせていただきました。お陰様で産婦人科以外のことでも、困ったときに相談、アドバイスをいただける先生方にたくさん巡り会うことが出来ました。

入院を考慮する必要がありそうな患者さんはもとより、手術適応がありそうな患者さん、大多数の妊婦さんは積極的にご紹介させていただいております。また、厚生病院からは術後の患者さんの逆紹介や小手術の紹介をいただいております。

厚生病院との連携などと言えるようなことは行っておりませんが、せめて前線部隊のひとつとしての役割も果たすことで、この地域の産婦人科医療に貢献ができればと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

追伸：地下食堂の塩ラーメン、相変わらず美味しいです!!



旭川レディースクリニック

旭川市 3条通 2丁目 十字屋ビル 2階
TEL 0166-25-3110 FAX 0166-25-3133

診察時間

月火水金：9時～18時（昼休み13時～14時半）
木：9時～12時（平成26年2月から）
土(1,3,5週)：9時～12時（平成26年2月から）

休診日

日曜日、
第2、4土曜日

第4回

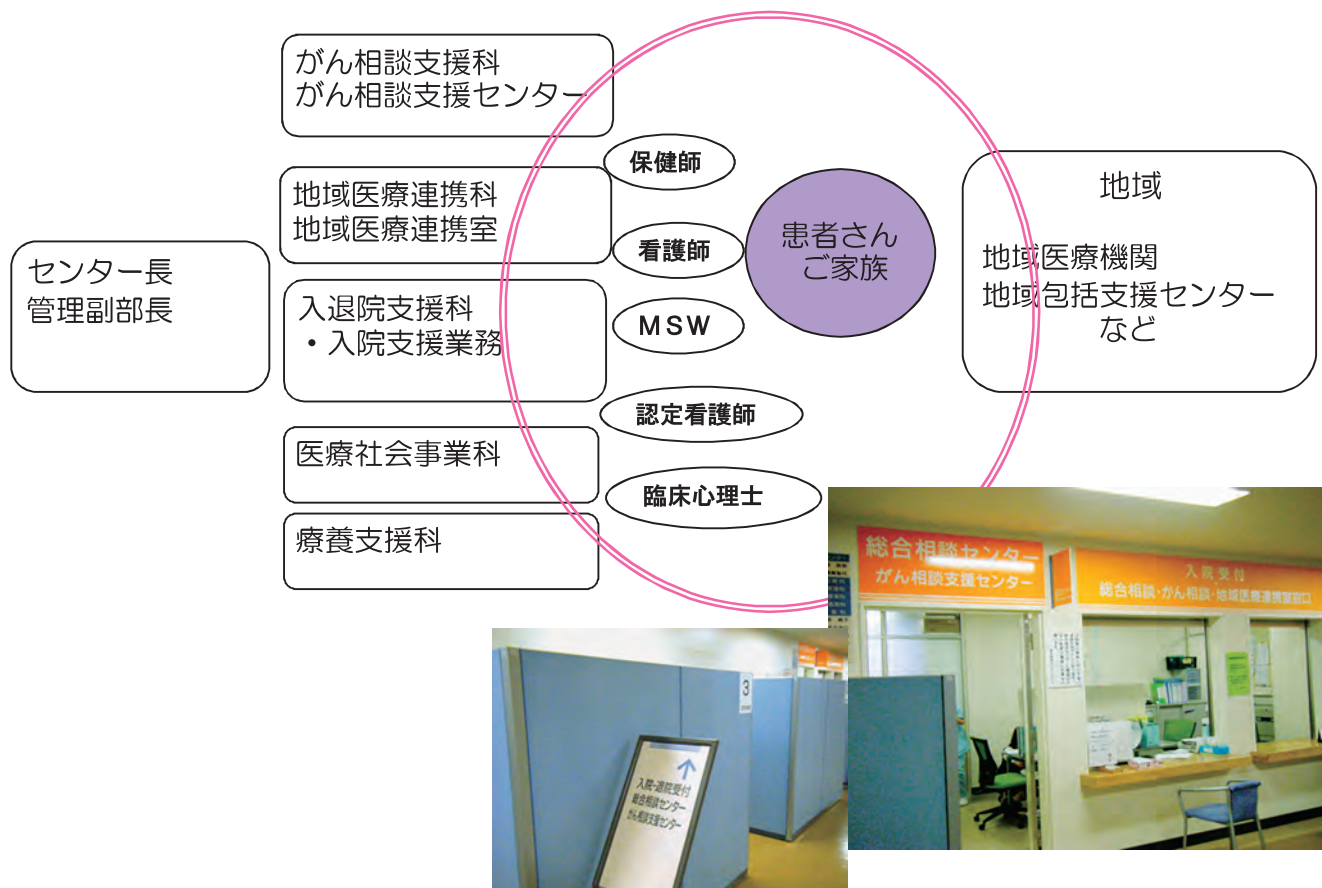
総合相談センター便り

旭川厚生病院では、患者さんやご家族が困っていること等の相談に対応できるよう総合相談センターを設置しております。さらに、地域の訪問診療医や訪問看護師・ケアマネジャーの方々と連携をとり、よりよい療養支援を心がけています。

今回は、平成25年4月から動き始めました「新しい総合相談センター」をご紹介します。

❖総合相談センターの組織と機能❖

4月から、入退院支援科に入院支援業務を開設しました。入院支援では、入院申し込み時に退院後の生活を見据えて、患者さんの身体的・社会的・精神的問題などの情報収集を行います。また、患者さんご家族の状況に応じて相談センターに配置されているがん相談員・医療ソーシャルワーカー（MSW）・退院調整員認定看護師・臨床心理士につなげています。総合相談センターは、患者さんご家族の病気や療養生活に伴う様々な不安や悩みに迅速に対応できるよう、専門多職種が連携している多機能部門です。



地域包括ケアシステムの実現には、在宅療養支援体制が最も重要といわれています。急性期病院として高度医療の提供だけでなく、療養移行支援（病棟・外来機能）をより充実させていく必要があると考えています。どこにいても、どんな状況であっても、患者さんやご家族が望む地域で、安心して、療養生活を送れるよう支援していくことが私たちの使命です。今後も「地域連携カンファレンス」や「療養サポートセミナー」「地域医療連携の集い」などの機会を通し、地域とのつながりを強めていきたいと思っています。

総合相談センター・がん相談支援センター 電話：0166-33-7171（代）

文責：看護部管理副部長 舟橋 美智代



リハビリテーションと理学療法士のお仕事



リハビリテーション（以下リハビリ）は、TVドラマで見られるように常に厳しい訓練を行い、苦痛を伴うものではありません。一方、必要以上の手助けにより、依存度を高めて生活するようにするものでもありません。患者さんやご家族が、無理なく自分たちの力で、より良く生活するためにはどうすればよいか？スポーツ選手に対しては、どうすれば競技復帰できるのか？理学療法士はその為に個々の身体能力や精神機能、背景因子や環境因子を見極め、問題点を抽出し、目標を掲げ、リハビリプログラムを作成していきます。そして、リハビリを通じ、希望を叶えるためにお手伝いしていくことが、理学療法士のリハビリの目的であり、その存在価値と言える仕事です。

どんな事をするのでしょうか？

1) 関節可動域訓練 (ROM訓練)

怪我や安静による不動、手術後に動きづらくなった関節を解剖学・運動学などの知識を基に関節を正常な状態に近づけていきます。



2) 筋力訓練

一人ひとりにあった筋力訓練を立案します。方法・回数・負荷・頻度などを考えながら必要な筋力増強を目指します。



3) 基本動作訓練

「立つ」「歩く」「起き上がる」などの日常生活に不可欠な基本動作能力の改善を目指します。



4) 生活のアドバイス

ご自宅などで快適な生活が出来るように、必要に応じて福祉機器の利用方法や住宅改修のアドバイスを行います。

5) 色々な場面でのリハビリ

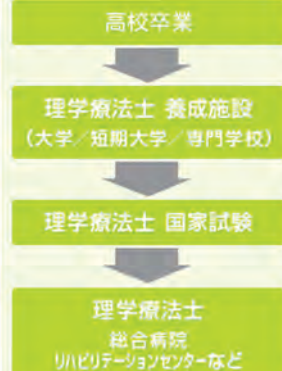
呼吸や心臓、赤ちゃん～高齢者、スポーツ領域、最近では緩和ケアなど関節や筋といった運動器ばかりではなく体の内部や精神的なかかわりなど活躍場面は多岐に渡ります。



理学療法士になるには？

理学療法士になるには、厚生労働省が管轄する国家試験に合格しなければなりません。そして国家試験を受験するためには、まず高校を卒業して、文部科学大臣または厚生労働大臣が指定した養成施設で3年以上学び、必要な知識・技能を修得することが必要です。

理学療法士までの過程



超高齢社会の中における理学療法士の役割

現在、寝たきりの方や介護支援を必要とされる高齢者が増え、介護スタッフの不足が問題視されていますが、早期リハビリテーションを行うことで、自立した生活を送れるようになったり、寝たきりを防ぐこともできます。そういった意味でも高齢者の自立支援は急務とされておりその中で理学療法士が果たす役割はますます大きくなっていくと思われます。

JA北海道厚生連旭川厚生病院 外来診療体制表

受付時間

新患受付 午前の部 8:15~11:30 午後の部 12:45~15:00
 再来受付 午前の部 7:45~11:30 午後の部 12:30~15:00
 (診察時間 午前の部 8:30~ 午後の部 下記参照)

- 各診療科ごとに診療体制が異なります。
- 下記表の●が一般外来として受診可能な時間帯です。(△は予約制の一般外来です)
- 特殊外来は予約制です。下記特殊外来一覧をご参照ください。

お問い合わせ 旭川市1条通24丁目111番地3 TEL (0166)33-7171

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
血液・腫瘍内科	●		●		●		●			
代謝・内分泌内科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
呼吸器科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△
消化器科	●	△ 特殊外来	●	△	●	△ 特殊外来	●	△	●	△
循環器科	●	△	●	△ 特殊外来	●	△ 特殊外来	●	△ 特殊外来	●	△
神経内科									●	
小児科	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来
外科	●	△	●	△	●	△	●	△	●	△ 特殊外来
乳腺外科						△		△ 第2・4	△	△
呼吸器外科	●		●		●		●		●	
整形外科	●		●		●	△	●		●	
産婦人科(婦人科)	●		●		●		●		●	
産婦人科(産科)	●		●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	特殊 外来	●	
皮膚科	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●	● 14:00~	●		●	● 14:00~
形成外科		● 13:00~	●				●			● 13:00~
泌尿器科	●	△	●		●		●		●	△
耳鼻咽喉科	●		●		●		●		●	
眼科	●				●		●		●	
精神科	休診中									
麻酔科	●				●				●	
放射線科	●		●		●		●		●	
緩和ケア科	●	△	●	△	●	△	●	△		

●特殊外来一覧

- 〔消化器科〕
- 肝臓(水) 13:30-16:00 (予約制)
 - 胆嚢・膵(月) 13:30-16:00 (予約制)
- 〔小児科〕
- 慢性疾患(月・火) 13:30-15:30 (予約制)
 - 予防接種(月) 13:30-15:00 (予約制)
 - 循環器(旭医出張医)(第2・第4水) 13:30-15:30 (予約制)
 - 1ヵ月健診(水) 13:30-15:00 (予約制)
 - 内分泌(毎月第2・3・4木) 13:30-15:30 (予約制)
 - 発達(木) 13:30-15:30 (予約制)
 - 神経(月) 13:30-15:30 (予約制)
 - (木) 8:30-15:30 (予約制)
 - 乳児健診(金) 13:30-15:00
 - 乳児健診(佐藤Dr)(毎月第1木) 13:30-15:00
- 〔外科〕
- 乳腺検診(木) 13:30-15:00 (予約制)
 - ストーマ(第3金) 13:00-16:00 (予約制)
 - ” 【新患可】※
 - ストーマケア(金) 13:00-16:00 (予約制)
- 〔乳腺外科〕
- 乳腺外来(第2・第4木) 13:30-16:30 (予約制)
- 〔産婦人科〕
- 更年期(月) 14:00-16:00 (予約制)
 - 産後1ヵ月健診(水) 14:00-16:00 (予約制)
- 〔神経内科〕 紹介患者のみ
- 〔放射線科〕
- (月・火・水・木) 9:00-11:00
- ※【新患可】以外の外来は予め午前外来受診となります。
- ※麻酔科の診察時間は9:30~11:30となります。
- ※小児科の内分泌外来は毎月第2・4木曜日で診察します。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

〒078-8211 旭川市1条通24丁目111番地3
TEL:(0166)33-7171 FAX:(0166)33-6075

●旭川厚生病院ホームページアドレス

<http://www.dou-kouseiren.com/byouin/asahikawa/>



※PCサイトへ接続されるQRコードの為、うまく表示されない場合があります。